

第62回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年7月29日（月） 16:00-18:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

常田座長、関委員、永田委員、野村委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

風木局長、渡邊審議官、松本参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

嶋崎課長

原田戦略官

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

吉川チーム長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS）

國中所長

川崎理事補佐長

山田准教授

川勝プロジェクトマネージャ

宮崎所長

国立天文台ハワイ観測所

4. 議事要旨

(1) HWO 国内準備の状況について

HWO 国内準備の状況について、資料1を用いて、国立天文台ハワイ観測所長の宮崎聡先生から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

○予算規模が大きいため、日本のコミュニティとして進めていくことが重要。日本独自のプロジェクトがどのようにHWOの計画に寄与していくのか。今後の行程表も含めてコンセンサスを取っていただきたい。

○サービスミッションによる貢献について、工学的な観点での貢献や、HWOのミッションとの関連性をしっかり議論いただきたい。

○国立天文台の研究成果と宇宙科学研究所（ISAS）での研究成果がある中で、研究者コミュニティの中での議論にとどまらず、JAXAとしてのリーダーシップを発揮していくべきではないか。

(2) MMXの進捗状況について

MMXの進捗状況について、資料2に基づいて、ISASから報告があった。

委員から、工程表について以下のような意見があった。

(○：意見等)

○月以遠の火星圏で日本が存在感を示す重要なプロジェクト。打上げがのびたことにより実施していく成功の確度を高める活動が、実際にどの程度上がるのか。

○SLIM の推進系の故障により姿勢制御が最終段階でうまくいかなかったこと、「失敗」から学んで MXX ではどう改善していくか、が重要ではないか。

○H3 ロケット開発との連携状況はいかがか。

○重要なプロジェクトであり、今後も本委員会で状況を継続的に確認していく。

(3) アポフィス観測の国際状況について

アポフィス観測に向けた調整状況について、資料3に基づいて、JAXA から報告があった。

委員から、工程表について以下のような意見があった。

(○：意見等)

○本件が科学面に限らないという性質を持つ中で、日本では、今後どこが主体となって進めていくのか。

○本件に関わる人材育成の状況はいかがか。

○今後の欧州との調整の具体的な計画はいかがか。

○今後も、本件は、本委員会で状況を継続的に確認していく。

以 上